

2020年度美郷町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、仙北平野の南東部に位置し、全耕地面積に占める水田の割合が約93%で基盤整備率が約82%と進んでおり、土地利用型農業の生産性向上等を一層進めていく必要がある。

また、主食用米と技術や機械が共通して取り組みやすいことなどを背景に、近年では加工用米、備蓄米、新規需要米などの非主食用米が増加しており、転作面積の約4割を占めている。

さらに、土地利用型の畑作物のうち、大豆面積の増加が著しく、本地域の主要な転作作物として位置付けている。

なお、アスパラガス、えだまめ、キャベツ、きゅうり、トマト、ねぎ、ホウレンソウ、シイタケ、すいか、花きの美郷ブランド10品目とメロン、セリ、ソラマメ、ニラ、モロヘイヤの美郷町振興野菜など本地域の水稲転作の対象品目は多岐にわたっている。

2 作物ごとの取組方針等

本地域の5,900haの水田について、適地適作を基本に、産地交付金を有効に活用しながら作物生産の維持・拡大を図る。

(1) 主食用米

消費者や実需者のニーズに対応した「売れる米づくり」を推進し、米の産地として作物生産の維持を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米を転作の重点推進品目として位置付け、将来の大幅な需要拡大による作付の拡大を見据え、農業者が取り組みやすい環境整備を進めていく。

具体的には、収量向上や低コスト生産などの栽培管理技術の確立、多収品種の導入、団地化を推進し、産地交付金も最大限活用して作付拡大を図る。

また、安定的な生産・供給される産地へ誘導するべく、複数年契約の推進を通じて、作付け拡大を図る。

イ 米粉用米

農業関係機関、団体、実需者等と連携を強化しながら、需要に応じた生産を行うとともに、水田の有効活用を図る。

また、安定的な生産・供給される産地へ誘導するべく、複数年契約の推進を通じて、作付け拡大を図る。

ウ 新市場開拓用米

農業関係機関、団体、実需者等と連携を強化しながら、需要に応じた生産を行

うとともに、水田の有効活用を図る。

また、安定的な生産・供給される産地へ誘導するべく、複数年契約の推進を通じて、作付け拡大を図る。

エ WCS用稲

農業関係機関、団体、実需者等と連携を強化しながら、需要に応じた生産を行うとともに、水田の有効活用を図る。

オ 加工用米

農業関係機関、団体等との連携を強化しながら、水田の有効活用を図る。

カ 備蓄米

農業関係機関、団体等との連携を強化しながら、水田の有効活用を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

大豆については、今後とも転作の重点作物として位置付け、産地交付金等を有効活用しながら団地・集積化を推進するとともに、モミガラ補助暗渠等による排水対策や堆肥の投入等による地力増進に努めるなど、生産性向上対策の確実な導入定着を図る。

麦、飼料作物については、組織経営体による団地・集積化を推進し、農業関係機関、団体等の連携を強化しながら水田の有効活用を図る。

(4) そば、なたね

水田フル活用の観点から、不作付地を有効に活用できる作物として位置付け、地域の需要者との契約を基本として、産地交付金の活用により集積化を推進し、作付け拡大を目指す。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

野菜・花き等については、複合経営の柱となる作物として位置付け、美郷ブランド10品目や美郷町振興野菜の重点作物を選定し、産地交付金をはじめ、強い農業づくり交付金や夢プラン事業など、国や県の支援策を有効活用し、収益性の高い品目の作付け拡大を図る。

果樹については、種なし大粒ぶどうなどを振興作物として取り組みを進める。

生薬については、町の“生薬の里 美郷”構想に基づき、生産から出荷までの一連の体制整備により、国産優良生薬の安定供給を目指す。

地力増進作物については、基盤整備事業によって整備される大区画ほ場へ、翌年度以降の作物の収益力向上を目的に、ほ場の透水性や土壌環境等の改善を期待し作付けを行う。

(6) 畑地化の推進

主食用米の需要が年々減少する中、需要に応じた米の生産・販売を進めるとともに野菜等の高収益な畑作物の本作化を進めるため、また、単位面積当たりの生産性を高めていくためにも、畑地化による排水改善や作業効率の向上を進めていく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	2020年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	3,644	3,600	3,600
飼料用米	36	36	36
米粉用米	1	2	2
新市場開拓用米	23	40	40
WCS用稲	122	130	130
加工用米	424	450	450
備蓄米	158	200	200
麦	1	3	3
大豆	592	630	630
飼料作物	321	330	330
そば	5	7	7
なたね	0	2	2
その他地域振興作物	470	513	513
野菜	190	220	220
花き	12	14	14
果樹	4	5	5
生薬	1	2	2
その他作物	1	2	2
地力増進作物	262	270	270
品目内訳			
美郷ブランド10品目	82	103	103
アスパラガス	8	10	10
えだまめ	35	43	43
キャベツ	7	9	9
きゅうり	3	4	4
トマト	7	8	8
ねぎ	8	10	10
ハウレンソウ	1	2	2
すいか	4	4	4
シイタケ	1	2	2
花き	8	10	10
美郷町振興野菜(メロン、セリ、ソラマメ、ニラ、モロヘイヤ)	6	10	10
メロン	1	1	1
セリ	1	2	2
ソラマメ	2	3	3
ニラ	2	3	3
モロヘイヤ	0	0	0
その他野菜、山菜(別紙4)	14	18	18

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度(実績)	目標値
1	大豆（基幹作物）	単収向上対策助成	作付面積 交付対象面積 10a当たり収穫量	(2019年度) 592 ha 450 ha 207kg/10a	(2020年度) 630 ha 460 ha 220kg/10a
2	大豆（基幹作物）	大豆団地加算助成(6ha団地)	作付面積 6ha以上の連坦団地化 10a当たり収穫量	(2019年度) 592 ha 172ha 207kg/10a	(2020年度) 630 ha 180ha 220kg/10a
3	大豆（基幹作物）	大豆団地加算助成(3ha団地)	作付面積 3ha以上6ha未満の連坦団地化 10a当たり収穫量	(2019年度) 592 ha 105ha 207kg/10a	(2020年度) 630 ha 115ha 220kg/10a
4	アスパラガス、えだまめ、キャベツ、きゅうり、トマト、ねぎ、ホウレンソウ、すいか、シイタケ、花き(別紙3)（基幹作物）	ブランド品目作付助成	作付面積	(2019年度) 82 ha	(2020年度) 103 ha
5	メロン、セリ、ソラマメ、ニラ、モロヘイヤ（基幹作物）	振興野菜作付助成	作付面積	(2019年度) 6 ha	(2020年度) 9 ha
6	その他野菜、山菜(別紙4)（基幹作物）	その他野菜等作付助成	作付面積	(2019年度) 14 ha	(2020年度) 18 ha
7	アスパラガス、えだまめ、キャベツ、きゅうり、トマト、ねぎ、ホウレンソウ、すいか、シイタケ、花き(別紙3)、メロン、セリ、ソラマメ、ニラ、モロヘイヤ、その他野菜、山菜(別紙4)（基幹作物）	野菜、花き団地化加算助成	作付面積 団地面積	(2019年度) 102 ha 37ha	(2020年度) 130 ha 46.9ha
8	りんご、なし、ぶどう、おうとう、もも、ブルーベリー、ブルーン、キウイフルーツ、いちじく、くり、柿、うめ、すもも（基幹作物）	果樹作付助成	作付面積	(2019年度) 2 ha	(2020年度) 3 ha
9	たばこ、小豆、ハトムギ（基幹作物）	その他作物作付助成	作付面積	(2019年度) 0 ha	(2020年度) 1 ha
10	生薬(カンゾウ・キキョウ・エイジツ・センブリ)（基幹作物）	生薬作付助成	作付面積	(2019年度) 1 ha	(2020年度) 2 ha
11	飼料用米の生産ほ場の稲わら（基幹作物）	耕畜連携助成(わら利用)	作付面積	(2019年度) 0 ha	(2020年度) 4 ha
12	飼料作物等(別紙5)（基幹作物）	耕畜連携助成(資源循環)	作付面積	(2019年度) 39 ha	(2020年度) 42 ha
13	地力増進作物(エン麦、ライ麦、イタリアンライグラス)（基幹作物）	地力増進作物作付助成	作付面積	(2019年度) 102 ha	(2020年度) 110 ha
14	飼料用米、米粉用米（基幹作物）	複数年契約加算	飼料用米 複数年契約取組面積・数量 作付面積・数量 米粉用米 複数年契約取組面積・数量 作付面積・数量	(2019年度) 0ha・0t 34ha・227t 0ha・0t 1ha・0t	(2020年度) 21ha・123t 36ha・210t 1ha・5t 2ha・11t
15	そば、なたね（基幹作物）	そば、なたねの作付助成	作付面積 そば なたね	(2019年度) 5 ha 0 ha	(2020年度) 7 ha 2 ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり